HACHINOHE GAKUIN

CAMPUS八戸学院

vol.59

砂浜彫刻『祈』
～未来を創造する～

研究室訪問
養護教諭養成課程における看護学教育

学校法人光星学院

CAMPUS 八戸学院

vol.59

表紙
八戸学院人工芝グラウンドで開催された学校法人光星学院スポーツ局主催の「サッカー教室」。はじめは緊張していた小学生も八戸学院大学女子サッカー部員の明るい自己紹介に緊張も解け、元気いっぱいでサッカーを楽しみました。

建学の精神
「神を敬し、人を愛する」
カトリックの精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。（寄附行為 第3条）

●八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
●八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
●八戸学院地域連携研究センター
TEL 0178-25-2789
●八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
●八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
●八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
●八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
●八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
●八戸学院第二しののめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/

CONTENTS

3　震災学習及び野球教室を通して

4　砂浜彫刻『祈』～未来を創造する～

6　行政機関×高等教育機関　南部町

8　研究室訪問
養護教諭養成課程における看護学教育

10　学校法人光星学院スポーツ局
令和３年度の事業がスタート

12　八戸学院 TOPICS

14　ステラが行く

15　ステラ・フォーカス

16　八戸学院大学短期大学部幼児保育学科
八戸小唄流し踊り学内発表会

17　同窓生の広場

18　理事長散策

読書のススメ

『谷は眠っていた』

倉本　聰

この本との出会いは高校時代。何不自由なく生活していた私には衝撃的だった。生きるために過酷な生活をしながらも本当にやりたいことに魂を燃やす若者たちの生き方に憧れ、そういう世界へ行ってみたいと思った。

現在は、富良野自然塾として各地で環境教育を展開。その情熱はインストラクターへと受け継がれ、今も多くの世代に感動を与えている。

八戸学院聖アンナ幼稚園
教　頭
吉田　ひろみ

震災学習及び野球教室を通して

私の地元である岩手県陸前高田市は10年前の東日本大震災で甚大な被害を受けました。私自身も自宅が全壊し、5年ほど仮設住宅で生活をしていました。

私は、以前から大学で様々な地域から集まってきている野球部員に陸前高田市に来てもらい、震災学習を実施し、東日本大震災についてより多くの人に知ってもらいたいと考えていました。

また、近年、野球人口の減少が問題となっています。私は、子供のころに参加した大学主催の野球教室で見た大学生に強い憧れを持ちました。自分自身が大学生になり、野球の奥深さや、楽しさを伝えることができればと思い、この企画を実施しました。

今回の体験を通して震災学習も野球教室も継続することの大切さを実感しました。今回で終わらせることなく、来年以降も続けていきたいと考えています。

八戸学院大学　健康医療学部人間健康学科
1年　村上　元太

震災学習（東日本大震災津波伝承館）[7/17]

震災当日の様子や津波の映像、津波で流され原形を留めていない消防車が展示されていました。津波の映像は、初めて見る人にはとても刺激の強いものですが、参加した大学生18人は目を背けることなく、真剣に映像や説明を見聞きしていました。

野球教室（高田松原運動公園野球場）[7/18]

陸前高田市内の野球スポーツ少年団を対象に実施した野球教室には、小学２年生から５年生の67名が参加しました。小学生はとにかく活発で、説明を聞いてもらうため、また、分かりやすく伝えるためにジェスチャーを使うなど、教える・伝えることの難しさを実感しました。

砂浜彫刻『祈』～未来を創造する～

令和3年6月26日（土）、八戸市鮫町にある白浜海岸で『砂浜彫刻実習』に取り組みました。本年度から、系列校高大連携事業の一環として八戸学院大学短期大学部幼児保育学科の学生約170名と八戸学院光星高等学校保育福祉科の生徒約50名、計230名での開催となりました。この取組みは幼稚園教育要領「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の全てを網羅している砂遊びを八戸の素晴らしい自然の中で体感し、保育者を目指す学生の今後の保育活動に役立ててほしいという思いから平成18年度に始まりました。

今年度のテーマは『祈』とし、本学の建学の精神「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神に則り、新型コロナウイルス感染症の収束を願い『祈る』ことで未来を創造していく精神を養います。さらに、今年の7月「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコ世界遺産に登録されたことから「是川縄文遺跡」の国宝「合掌土偶」の『祈り』というメッセージも込めました。

〈講　評〉

今年度の砂浜彫刻は、総勢15組のチームとなった。テーマである「祈」から想像を膨らませ、それぞれ趣向を凝らした彫刻が作られた。その光景はちょっとしたテーマパークのようでもあり、学生と生徒のみなぎるエネルギーを感じることができた。中でも群を抜いた投票数で「金砂賞」を獲得した澤井ゼミは、たった4人のチーム編成だった。作品は女性が膝まずき太平洋へ向かい両手を合わす彫刻というもので、大きさも特徴的で他の作品に比べ極端に小さい。広大な砂浜の中でほぼ等身大としたことが少人数チームのハンディをチームワークの高さに変え、まさに目の前で人が祈りを捧げているようなリアリティを見事に表現した。マイナスをプラスに変えた発想の転換は、その場を共有した全員にとって大切なメッセージとなった。

砂浜彫刻は初めての試みでした。今まで海に行っても、砂で何かを作ろうと思ったことはなかったので、とても楽しみにしていました。『祈』というテーマのもと、私たちのクラスは『流れ星』をイメージし、全員で協力しながら素敵な作品をつくることができました。大変でしたが、想像どおりとても楽しかったです。初めての経験でしたが、ここまで素晴しい作品をつくることができ、達成感に満ちあふれました。卒業後は、短期大学部に進学して、更に素晴らしい砂浜アートに挑戦したいです。

2年H組　高坂　凛音

「金砂賞」を獲得した澤井ゼミ

高校生に作品についてレクチャー

海水で固めた砂を削り細部を作り込みます。

作業開始！砂を積む、掘るなどしておおまかな形を作ります。

行政機関

NANBU × HACHINOHE GAKUIN

高等教育機関

南部町

町長　工藤　祐直

1955年 生まれ 三戸郡南部町（旧名川町）出身
1979年 明治学院大学法学部法律学科卒業
1983年 名川町役場入庁
1999年 名川町長就任（2期）
2006年 南部町長就任（現在4期目、通算6期目）
※2006年「旧名川町」「旧南部町」「旧福地村」の合併により南部町誕生

南部町と八戸学院大学との連携実績

八戸学院大学と当町は、連携協力協定を締結する以前から、青森県立名久井農業高等学校からの推薦入学枠の確保や（当時の）大谷学長の起業家育成講座を通じた南部町への移住就農者の実績、町民運動会での町民の健康チェックへの協力など多くの連携実績がありました。

連携協定締結とその後の動き

平成28年3月23日、さらに連携を深めるため八戸学院大学、八戸学院短期大学、南部町の三者による「連携協力に関する協定書」調印式を行いました。

協定では、それぞれが保有する情報、人材、ノウハウなどの資源を活用し、社会発展に貢献することを目的とし、①地域団体と地域活性化の研究・実践　②地域人材の育成、定住促進　③農林業等地場産業の育成、振興　④地域の健康増進、スポーツ振興　を大きな協力事項として、以後、様々な事業で連携を進めてきました。

連携協力協定調印式（平成 28 年 3 月 23 日）

令和元年度からは、八戸学院大学短期大学部に介護福祉学科が開設されたことに伴い、外国人留学生（介護人材）の受入体制の整備を進めてきました。

この取組みは、大学に入学する留学生が町に居住し、町内の福祉法人や町の支援を受けながら大学卒業後の介護福祉士国家資格取得を目指していただき、卒業後も引き続き町に居住し、支援を受けた福祉法人で就労するというものです。

全国的な介護人材不足が問題となっていますが、当町においても例外ではなく、この取組みが人材不足解消の第一歩になることを大いに期待しています。

また、町内外の在住外国人の支援および交流促進を図るために令和2年度に町が開設した「国際交流センター」では、日本語教育をはじめ在住外国人同士や地域住民との交流も活発化しており、今後も大学との連携により国際交流の発展を目指していきたいと考えています。

南部町国際交流センター開所式の様子

健康福祉分野においては、町民対象の健康講座や介護予防ボランティア講座における運動指導、子育て教室におけるアートに触れ合う取組みについて、大学からご指導、ご協力をいただいています。

その一環として、合併10周年記念曲「3つの花」のアレンジ曲に合わせた体操の振り付けの考案とご指導をいただき、令和3年3月に「3つの花体操」が完成しました。

このように、各種事業をとおして、「笑顔あふれる健康な南部町」、「子育てにやさしいまちづくり」に寄与していただいています。

八戸学院大学教員による「介護予防ボランティア講座」

八戸学院大学教員による「3つの花体操」の振り付け指導

災害ボランティア活動

連携協定とは趣が異なりますが、八戸学院大学に対する私たちの忘れることができない記憶、それは災害時のボランティア活動です。

当町の中央を流れる馬淵川は当地域に豊かな恵みをもたらしてきた一方で、時として大災害を引き起こし、私たちに牙をむくことがあります。

平成23年9月の台風第15号による大災害の記憶が消えない平成25年9月、当地を襲った台風第18号は、馬淵川の氾濫により記録的な洪水をもたらし、当町も住家の半壊74棟、床上浸水58棟、床下浸水54棟、非住家被害303棟など甚大な被害を受けました。大量の土砂が町を覆いつくし、多くの町民が途方に暮れていた時、私たちに大きな希望を与えてくれたのが八戸学院大学の学生をはじめとしたボランティアの方々でした。

ラグビー部やバスケットボール部、軟式野球部を中心とした延べ56人の八戸学院大学生たちが文字通り泥にまみれながら懸命に復旧活動を行った結果、避難所生活を余儀なくされていた被災者全員が早い時期に自宅に戻ることができました。この時被災した多くの方々やボランティア活動で一緒に汗を流した町民や職員にとって、決して忘れることができない感謝の記憶です。

八戸学院大学学生による災害ボランティア

八戸学院大学への大いなる期待

コロナ禍の現在、感染症対策のため、人の往来や集会が制限されるなど、思うように連携事業が進まない状況となっていますが、アフターコロナを見据え、引き続き情報の共有を図り、次の一手を考えていきたいと思います。

どうかこれからも県南地域の高等教育機関として、当地域になくてはならない大学であり続けることを心から祈念し、この連携協力協定を通じ当町に関わっていただいた学生がこの地域に定着し、引き続き我が町のまちづくり、人づくり、健康づくりに携わってくれることを大いに期待しています。

養護教諭養成課程における看護学教育

八戸学院大学
健康医療学部　准教授
浜中　のり子

公立ラ・トローブ大学　看護学修士取得コース終了
2014年4月から八戸学院大学健康医療学部人間健康学科（旧：人間健康学部）に勤務

研究テーマ　養護教諭養成課程における看護学教育
担当科目　看護学　看護実践論
看護技術演習
看護学臨床実習Ⅰ・Ⅱ
健康教育論（オムニバス）

①養護教諭養成段階で看護学の何を教えるべきか

看護職として看護基礎教育と医療現場の勤務を経て、本学で養護教諭養成に関わっております。着任時からの問いが、「養護教諭に必要な看護実践力とは。看護学の何を教えるべきか」で、毎年、シラバスの大幅な修正を行ってきました。

教育職員免許法で授業科目が定められていますが、養成段階における養護教諭の専門職性や教育内容について明確な基準がなく、各養成校の裁量のもとで行われている現状にあります。また、養護教諭の養成機関は教育系、看護系、学際系（特定の学問領域にとどまらず、いくつかの領域にまたがっている学問分野。本学は学際系と考えられます）と多様です。養護教諭として必要な資質・能力を身につけるためのカリキュラム編成と組織的な体制作りが喫緊の課題となっています。

養護教諭養成では、人間性と専門性の両面から育てる必要があります。養護教諭としての専門的な力について、私は、未来を担う子どもの健やかな心身の発達を支援する力、健康障害（課題）をもつ子どもに適切に対応する力、協働・連携する力が必要と考えます。

限られた教育時間での教育内容の精選も大きな課題です。養護教諭免許に必要な養護専門科目の中で「看護学」は10単位とされます。当学では、『臨床実習』4単位、『救急処置』2単位、残る『看護学』2単位、『看護技術演習』2単位、合計4単位で看護学の基礎を教えることになります。四苦八苦しましたが、どうしても看護実践の基本となる観察・記録やコミュニケーション、看護過程、看護倫理、与薬・吸引・吸入などの医療的ケアについての時間確保が困難でした。

これらの知識・技術は、養護教諭に必要な基礎的能力であると考え、当時の学科長に相談して、『看護実践論』2単位を設けて頂きました。『看護学』『看護実践論』『看護技術演習』のシラバスを整理し、以前に比べると看護の基礎がおさえられるようになってきたと思います。

看護技術演習の様子

現在は、学校現場を意識した授業を心がけています。例えば、『与薬』の授業で、てんかん発作時の子どもを想定して、坐薬挿入の演習を行います。学生はまず、文科省の文書に沿って、安全確認（患者誤認防止、書面での医師の指示および保護者の依頼）を行います。

援助者と患者役の両方を体験し、解剖生理学や薬理作用、感染予防対策を踏まえた安全・安心な技術、羞恥心やプライバシーへの配慮、観察事項などを学びます。

また、アナフィラキシーへの対応の一環として、練習用エピペン（針なし）を用いて、エピペン注射の演習を実施します。演習前は、「注射の必要性はわかるが、実際に打つとなると恐い」という学生が多いのですが、演習後は、「注射をする場合の注意点がわかった。いざという時は躊躇せずに打とうと思う」といった感想が聞かれます。

②看護学臨床実習で何を学ぶか

着任して間もなく、養護教諭をされている本学の卒業生に、「看護学臨床実習はどうでしたか？」と質問しました。期待した「沢山学びました」ではなく、「全く意味がなかった」の言葉にショックを受けました。看護学臨床実習は、養護教諭に必要な看護の基礎的能力を育成するうえで重要なはずなのに、意味がない実習になったのは何故かを考えました。結局、明確な理由は分かりませんでしたが、それを機に、学生から看護学臨床実習の意義を評価してもらえるようになることを目指しました。

実習要項の見直しの他、実習中の学生の状況、実習記録物、実習終了後の事後指導や満足度とその理由を含むアンケートから実習担当教員間で改善点を見出してきました。近年の実習直後の満足度は、①「大変満足」②「まあまあ満足」③「あまり満足していない」④「全く満足していない」の4択中、①と②でほぼ100％ですが、1年後の4年次、卒業後の調査をしていないので判定保留です。

ともあれ、学生たちは、医療・看護の現場で緊張しながらも、現場ならではの生きた学びをしています。

看護活動の見学を通して、学生はさまざまな健康障害を持つ人に接し、健康障害が人の生活に及ぼす影響や治療・処置、リハビリテーション（医学的アプローチ）について理解を深めています。

そして、医療安全の確保、感染予防対策を図りながら早期回復を目指した援助の方法や、健康障害を持ちつつ、能力を最大限に活かしてその人らしく生きるための援助について学んでいます。特に、患者の気持ちを尊重したコミュニケーションの取り方や接し方について、良く学んでいます。養護教諭の役割を遂行するうえでコミュニケーション力は重要であり、貴重な学習の機会となっています

また、医療チームの協力体制や多職種との連携の在り方を学び、養護教諭としてチームワークをとり連携することの重要性を理解しています。そして、看護倫理のもとに援助が実施されていることを知り、自己の倫理観を高める機会となっています

昨年・今年は、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、実習期間の短縮が余儀なくされました。コロナ禍ではありますが、事前指導、実習中の指導、事後指導を工夫して教育の効果を維持向上させたいと思います。

③教育（養護）実習で学生の成長を実感

4年次になると、学校現場で養護教諭の先生の指導の元で実習をします。毎年、巡回指導を行っていますが、どの学生も立派な先生となって、子どもたちに接しています。研究授業も素晴らしく、感動します。

養護実習終了後は学生に戻り、若者言葉ではしゃいでいますが、決めるときには決めることができる人達なので安心して見ています。

ゼミ活動で学生が作成した「保健だより」

④ゼミ活動、教員採用試験対策について

ゼミ活動では、2年次の春学期は、各自「保健だより」の作成、秋学期は全員で大きな掲示物の作成をします。3年次は、公立学校の教員採用試験対策を集中的に行います。

教員採用試験は、筆記試験、論作文、グループ討議、模擬授業、個人面接、自治体によっては救急処置の実技試験もあり、難関です。できるだけ早期から準備をすることが必要ですが、つい、学生の息抜きを忘れてしまいがちなので、学生のモチベーションの維持向上が図られるようにオンとオフの切り替えを上手にしていきたいと思います。

学生のモチベーション維持するためにオンとオフの切り替えが重要（2019年6月撮影）

学校法人光星学院スポーツ局
令和３年度の事業がスタート!!

【大学生対象】女子アスリートの健康支援

令和3年度　女子アスリート健康相談
第2回集会・勉強会を開催［7／12］

八戸学院大学の強化指定部に所属する女子学生41名を対象に、「女子アスリート健康相談　第2回集会・勉強会」を開催しました。集会は、八戸学院大学健康医療学部看護学科の髙橋学科長をはじめとする担当教員5名（坂本准教授、藤邉講師、前森助手、堺助手）の自己紹介からスタートし、女子アスリート健康相談窓口の案内と女子アスリートにおすすめの図書や健康管理アイテムの紹介をしました。勉強会は、昨年5月に実施した健康問題に関するアンケート結果で、学生のニーズが高かった『月経周期とコンディショニング』をテーマに健康講座を行いました。月経のメカニズムや女性特有の諸問題が、女子アスリートのからだと競技コンディションにどのように影響しているかを学びました。

〈アンケートより〉

- 月経周期の数え方や基礎体温測定など、自身の体調管理のために実施してみたい。
- 前年度の勉強会がきっかけで婦人科を受診したことで体調が良くなり、婦人科受診に対する抵抗感が軽減した。
- 月経のことで悩んでいる友達がいたら、婦人科受診をすすめてあげたい。
- ピルに関して良いイメージはなかったが、勉強会後には月経困難症などの症状が強い場合に適切にピルを使用することが症状緩和につながり、大事な大会時には最良なコンディションで臨めるかもしれない。

今後も、女子アスリートのみなさんが、自分自身のからだと上手に付き合いながら健やかな競技人生を送れるように、健康に関する勉強会を企画しています。

【大学生対象】
運動部活動生のためのコンディショニング講座
講師：大塚製薬株式会社

【小・中学生保護者対象】
八戸学院スポーツアカデミー・食育講座

【小学生対象】
八戸学院スポーツアカデミー・女子サッカークリニック

法　人　学生駐車場拡張工事が完了

近年、美保野キャンパスでは学生駐車場の確保が課題でした。今回、学校法人光星学院整備計画事業の一環として、大学側学生駐車場の拡張工事が完了し、421 台の駐車が可能となりました。

これからも、教育活動の充実を目指し、各キャンパスの教育環境の整備を行って参ります。

大　学　第73回日米学生会議

日本と米国の学生が多様な話題で議論する「第 73 回日米学生会議」が青森県を含む国内３ヵ所で開催されました。青森県内での開催は初めてとなり、八戸サイトフォーラム（8/10）では、地域経営学科４年の根城龍星さんが全体司会を務めました。また、小林八戸市長の挨拶では、地域経営学科２年の倉岡舞さん・渡辺朝陽さんの２人が英語への通訳を務めました。

大　学　看護職の未来と持続可能性を考る

看護職を目指す学生４名とキャリアデザインや SDGs を担当する教員が「看護職の未来と持続可能性を考える」をテーマに座談会を開催しました。

座談会では「看護職の多様性」や「看護職のこれからの働き方について」など、自分自身のキャリアと地域や世界の持続可能性について考えました。

学生たちは、各々が考えることを正直に話し、互いにその内容を深く聞くことで自身を振り返り、看護職を目指す意義を再認識し、さらに視野を広げて地域や社会、そして世界の役に立てることは何かについて話し合いました。

短　大　ゼリーで紫陽花を咲かせよう ～レクリエーション活動を体験～

介護が必要な方々の生活支援において、レクリエーションはとても重要な要素です。このため、介護福祉学科では「レクリエーション指導者」の資格を取得できるカリキュラムを採用し、レクリエーション活動を体験するとともに、介護施設で人気の「おやつづくり」なども行います。２年生の授業では、食欲アップや水分補給なども想定してゼリーをつくり、協力しながら盛り付ける楽しさ、ともに食べる楽しさ、語り合う楽しさを体験しました。

光星高　英検準一級に合格

令和３年度第１回英語検定で、普通科特別進学コース２年のジョン・レゲーロ・ペロニア君が、光星初の準１級に合格しました。故郷フィリピンでは母国語タガログ語と英語を常用し、その言語感覚を基に、全く話せなかった日本語も数か月で習得したジョン君。

「国際線のパイロットになり、世界各国の人達と英語で話す。」という将来の目標達成へ向けて、今回の受検を決意したそうです。準１級の受検では和訳や面接の緊張はあったものの、検定試験全体の正答率は９割超でした。次は１級を取得するとの意気込みで、今後の飛躍が期待されます。

合格証明書を手に微笑むジョン君（中央）と
ALT のエティエン先生（左）下山先生（右）

光星高　吹奏楽部が金賞を受賞 ～東北大会出場へ～

東北大会出場が決定した吹奏楽部員

「全日本吹奏楽コンクール第 63 回青森県大会」において高等学校小編成の部で金賞を受賞し、東北大会への出場が決定しました。

部員 24 名はコロナ禍での制限された部活動の中でも、工夫を凝らし心をひとつにして大会に臨みました。特に今回の演奏曲「アイヌ民謡“イヨマンテ”の主題による変奏曲」は、曲中のアイヌ民族の生活場面のイメージを膨らませながら演奏しました。青森県代表校として堂々と演奏してきたいと思っています。

野西高　インターハイ出場報告

８月中旬から開催のインターハイに出場する空手道部の甲田慎之介（３年・三沢市立第五中学校出身）、レスリング部の鈴木愛彩（３年・東北町立東北中学校出身）、加我虎雅（３年・むつ市立田名部中学校出身）の３選手が、７月 20 日に野辺地町役場をたずね野村秀雄町長を表敬訪問しました。選手の「上位入賞を目指し頑張ります。」の言葉に、野村町長からは「このコロナ禍の中、体調管理を徹底し、思いを果たしてください。」と激励を受け、決意を一層強くした３選手でした。

左から　野村町長、加我君、鈴木さん、甲田君

野西高　東京2020パラリンピック 採火式 ～共生社会への思いを込めて～

野辺地町で行われた東京パラリンピックの採火式に参加しました。

この採火式は、東京 2020 パラリンピック開催に向けて、共生社会への思いを込めた火をおこす式典です。野辺地町で採火された炎は「常夜燈の火」と呼ばれ、県内各地（６か所）で採火された炎が三内丸山遺跡で一つに集火されて東京に向かい、聖火になると説明を受けました。

火をおこすのが大変でしたが、練習のおかげでうまく採火ができました。パラリンピックにかかわる貴重な経験ができて良かったと思っています。一生の思い出となりました。

横山遥佳（３年　野辺地町立野辺地中学校出身）

八戸学院幼稚園
避難訓練の重要性を再確認
～命を守る行動を～

当園は毎月1回避難訓練を行っています。地震・火事・不審者・Jアラートなど様々な不測の事態に、園児と職員の命を守る行動をとれるよう訓練しています。

基本的な動きとしては、地震の避難訓練の場合、1・2歳児（保育クラス）は、担任の保育教諭が子どもたちを保育室の安全な場所に集め、頭上から厚手の毛布で覆うなどして、落下物から身を守ります。年少以上のクラスでは、園児が自ら机の下に潜り机の脚を掴むなどして身を守ります。

火事の避難訓練の場合は、火事を知らせる放送・サイレンや肉声を聞き、口元を覆いながら姿勢を低くして担任の指示を待ちます。先生の話をよく聞いて指示に従うという大切な約束を守っています。

いったん身を守る動きをしたのち、より安全な場所へと担任の指示に従って避難しますが、毎月避難訓練を行う中、様々な事態を想定して訓練を考えるようになりました。

① 従来の「園庭に避難すれば安全」と考えるのではなく、出火場所等の情報から〝火元から最も離れた場所〟や〝風の強い日は風上の方〟など担任たちが判断し、声を掛け合いながら誘導する

② 園舎中央付近からの出火想定の場合、棟によって別な場所に避難する（2か所に分かれる）

③ 園舎では危険を回避できない場合、隣接する光星高校（第1避難所）まで歩いて避難する

場合によっては、スクールバスを使用し、東運動公園（第2避難所）まで避難するなどの動きも行っています。

毎月行うことの意義はここにあり、PDCAサイクルの計画→訓練→評価→改善を繰り返すことができています。危機管理観点での職員間の話し合いが非常に増えました。今まで気に留めていなかったことに目を向けることができるようになったり、様々なケースを想定するようになったりと取り組み方が真剣そのものになりました。

火災が起き消防署への通報、初期消火を行って園児たちを避難させる総合訓練も行います。消防署の方が来園し、避難訓練の講評をしていただくこともあります。その講評をもとに、また改善して次の避難訓練につなげていきます。

園児たちを避難させる訓練をするとともに教職員の消火訓練も行います。園舎内のどこに消火器が備え付けてあり、どのように操作するのか、万が一の事態に備えて訓練に取り組んでいます。

災害など何事もないのが一番ですが、それは誰にも分らないことです。防災・防犯に努めながら、それでも防ぐことのできない自然災害などは、様々なことを想定しながら対処方法を考え、訓練に生かしていきたいと思います。

ステラ・フォーカス

八戸学院第二しののめ幼稚園
せんべい焼き体験

年長児ならではの行事「おたのしみ会」では、種差少年自然の家に行き、せんべい焼きを体験してきました。炭火を起こす過程を近くで見たり、手に粉をたくさんつけながら力を合わせて生地作りをしました。「おいしくな～れ！」と心を込めて作った生地はモチモチになり、いよいよせんべい焼きの始まりです。炭の近くは暑く大変でしたが、大きい声で数を数え、せんべいを30秒ごとに裏返す作業を6回繰り返しました。自分たちで焼いたせんべいはとてもおいしく出来上がり、食べている時の子どもたちの表情はとてもキラキラしていました。貴重な体験ができ、年長児の最高の思い出となりました。

八戸学院幼稚園
「地域の方とのふれあい体験」

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域交流が難しい状況が続いていますが、6月15日の「信用金庫の日」に青い森信用金庫湊高台支店に展示された年長児の絵画を見に行きました。「自分たちの描いた絵をどう思って見てくれたかな」と、嬉しい反面、恥ずかしさもある年長児たち。

壁一面に貼られた絵を見上げ、「僕の絵あった！」と感嘆の声を上げる子どもたち。信用金庫の方や来店したお客様にも「こんにちは」と元気に挨拶をしたり、「上手に描けたね」と声を掛けられて喜んだりと、地域の方と触れ合う素敵な体験となりました。

八戸学院聖アンナ幼稚園
はじめてのオレンジ搾り

給食に出たオレンジからジュースが作られると知り、『やってみたい！』『どうやって作るの？』『搾るやつご飯屋さんで見たことある！』『レモン搾るやつでしょ？』と興味津々の子どもたち。普段のお料理会と違い、数日間オレンジ搾りコーナーをお部屋に設定。『結構力がいる～』『種が入っちゃった！』『まだ搾れそうだな。』などと呟きながら自分で搾ったオレンジジュースは、『甘～い』『ちょっとすっぱ～い！』だけど何度もお代わりしたくなるお味だったようです。

＜八戸学院大学短期大学部幼児保育学科＞

八戸小唄流し踊り 学内発表会

6月から練習を続けてきた「八戸小唄流し踊り」。新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年連続祭りが中止となり、今年も学内で発表会を行いました。

青々とした芝生のグラウンドに浴衣姿の学生約170名が列をなし、曲に合わせて優雅に踊っていました。

★令和3年度の手ぬぐいデザイン

八戸学院大学短期大学部創立50周年や八戸小唄流し踊り50回目、東京オリンピック2020の『五輪・五羽』からイメージし、オリンピックのモチーフとなった市松模様を紅色（日の丸カラー）で表現しました。

＜デザインに込められた思い＞

- 途切れることなく続いていく：繁栄（波が流れるように配置された四角）
- 保育者や介護士の優しさ（丸みをおびた四角）
- 多様性を認める（いろいろな形の四角）

同窓生の広場

焼き鳥パクパク
駅そばパクパク
店主　**板橋　玲子** 氏

野辺地工業高等学校
（現八戸学院野辺地西高等学校）
昭和51年3月卒（一期生）

《母校の思い出》

高校時代は、バレー部のマネージャーをしていました。合宿で顧問の先生の家に部員全員で泊り、食事作りでは鍋が足りず、先生の指示で洗面器を鍋の代わりにしてカレーを作ったり楽しかったですね。今でもメンバーが集まると当時の話で盛り上がります。

卒業後、縁あって野辺地工業高校に事務員として就職しました。当時は口座からの引落しはなかったので、月初めに事務室前には、授業料を支払いに来た生徒で長い列ができました。球技大会に教職員チームとして出場したのも良い思い出です。

《新たな挑戦》

高校には5年間勤めましたが、結婚を機に退職。しばらくして、駅前で商売を始めないかという誘いがあり、何か運命的なものを感じて「やきとりパクパク」を開店しました。はじめての経験で最初は戸惑いましたが、お客様から様々なことを学ばせてもらいました。今年で25年を迎えますが、続けてこられたのはお客様のおかげです。

2014年に野辺地駅のそば店が撤退することになり、駅からの打診で「駅そばパクパク」を開店ました。ゆっくり食事できるようテーブルと椅子を設置し、季節限定のメニューを開発するなど工夫しています。駅利用者以外にも、駅そばを目当てにいらっしゃるお客様が増えました。

2019年には、野辺地駅名物の駅弁「鳥めし」の販売が終了。野辺地駅の駅弁として60年以上親しまれてきた名物を残したいという思いから、パクパクで鳥めしの販売を始めました。だし汁で炊いたご飯に、自家製の鳥チャーシュー・鳥そぼろ・卵そぼろを乗せ、野辺地の特色を出すためにホタテの佃煮をトッピングしています。土日だけの販売ですが、多くの問い合わせをいただいています。

新型コロナウイルスの影響で、我慢の日々が続いていますが、収束後には駅前で野辺地町を元気にするようなイベントを開催したいですね。

《後輩へのメッセージ》

私は、これまで様々な人に助けられてきました。この繋がりこそが私の財産です。誠意を持って接すれば、困ったときに手を差し伸べてくれます。人との繋がりを大事にしてください。

やきとりパクパク
☎0175-64-8989

駅そばパクパク（野辺地駅構内）
［営業時間］8:30～14:00
☎090-7563-8164

人気の夏限定「冷やしそば」

つゆを凍らせた氷を使用することで味が薄くならず最後まで冷たく食べられます。冬は「鍋焼うどん」が人気。

パクパクの鳥めし

ホタテの佃煮を加えるなど地元愛にあふれた一品です。

鳥の旨味とホタテの甘しょっぱさが抜群です。

理事長散策

法官新一
Shinichi Hogan

昭和46年（1971年）に大学を卒業した私は、そのまま母校玉川大学にお世話になりました。大学の教学局に所属し教学分野を担当しながら広範囲にわたる仕事に就いていました。ある日、上司から東北大学の皇晃之先生という方が学園に来られるので、学園内を案内するために公用車を運転するように命じられました。

案内当日、U教学課長とキャンパスを案内している時に、皇先生が私の出身地を尋ねられました。「青森県の八戸市です」とお答えしたところ、「そうですか」と言いながら「今度八戸に短期大学ができましたよ」と親しみを持って教えてくれました。学校法人光星学院が創ったことも知らせて下さいました。文部省の審議官として現地を視察したことも伺い、美保野の地は全く原野であったはずと思い、短大が出来たことは、想像ができませんでした。郷里のしかも縁のある法人の情報を知るとは思っていなかったので、驚きでしたが嬉しくも思いました。学校法人光星学院の八戸短期大学は、学長に森田重次郎先生をお迎えして、周辺の道路はまだ砂利道の美保野キャンパスに誕生しました。

それから2年後、私は縁あって光星学院高等学校に教員として赴任しました。辞令交付式は、校舎前の緑の芝生が印象的であった八戸短期大学において行われました。

話は遡りますが、昭和40年に学校法人玉川学園の小原國芳先生が八戸市を訪れています。光星学院高等学校を含め市内の複数の高校で広報活動のために講演をされたことがありました。この時、本学院の中村由太郎先生とも歓談の機会がありました。お二人は一面畑地の中にあった湊高台キャンパスで、経営談義をしたそうです。その中で小原國芳先生は中村由太郎先生に、畑地の先の階上岳を望みながら、「中村さん、あの山のふもとまで土地を買って学校を作りませんか・・・」と言って、一大学園を建設することを進言したというエピソードがあります。

その後昭和43年、由太郎先生は美保野地区の人たちのご理解を得て、7万坪という広大な土地を取得し、夢であった高等教育機関の建設を始めたのでした。これ以前の昭和40年代半ばには、野辺地町の枇杷野地区に、高等学校建設のための土地4万坪を求め、むつ小川原湖開発を視野に、昭和48年に野辺地工業高等学校を開設し、校長に内部から冨田真先生が就任しました。時代の流れをいち早く捉えた、事業家としての手腕を発揮された躍進の時であったと思います。

美保野は八戸市の郊外にあります。僻地に認定されていた美保野小中学校の隣接地に高等教育機関として建設を始めました。先般閉校になった美保野小中学校は、美保野地区の開拓の歴史そのものの学校でもあったのですが、近年の少子化によって閉校となりました。通るたびに放置されている状況を見るにつけ、本学院の教育施設としての活用を検討しているところですが、今のところ進展はありません。しかし、立体的学院構想から考えてみると、放っておけない気持ちになります。

話は大学建設に戻りますが、初代の

祝　八戸短期大学　設立認可

八戸短期大学開学を伝える「光星新聞」（昭和46年3月）

霞信三郎学長は商学部単科でのスタートをこう話しております。「中村由太郎理事長の胸中は、文科系総合大学の商学・文学・法学・経済学系の四学部構成の大学を創ることにあります。八戸を中心とした県南地区70万の子弟を中心に、地理的、経済的理由から高等教育を受ける機会に恵まれない青年男女諸君に、その機会を得させたいという思いがありました。用地や校舎運営資金についての準備も万端という状況であること、そして文科系総合大学を設置し、国家及び地方文化、経済の向上の発展に寄与できる人材育成することが、自身の悲願と主張されていました」と語っておられます。

しかし、文部省の壁は厚く、四年制大学の新設は、昭和56年までは絶対不可能でありましたし、また青森県の大学進学率の低さから、定員確保が疑問視されました。それでも、人口が増加しつつある八戸市に、文科系四年制大学の必要性を主張したのでした。しかしハード面の設置基準をクリアしたとしても、二学部設置のための教授陣を整えることが困難であること、さらに大学設置審議会の理解を得るためには一学部の申請が妥当であることとし、方向を転換することにしたのでした。

結果、新産業都市に指定された八戸市と、北東北拠点の地域だということを前提に、商業界をリードする人材育成が義務であると位置づけ、「八戸大学商学部」として設置することを決めて申請したのでした。

昭和56年の設置認可から、すでに40年になりますが、この間定員増や学部増が行われて、現在は二学部三学科と短期大学部二学科で構成される高等教育機関になりました。当時文科系総合大学の設置を悲願とした由太郎先生の夢は、経済・経営、健康・医療・福祉・教育系として確立したのでした。

八戸学院大学・短期大学部はそれぞれ、大学40年・短期大学部50年を地域とともに歩んできたわけですが、学生のそれぞれが持つ唯一無二の個性を尊重する教育によって、全国から学生が集うキャンパスに成長しました。

美保野キャンパスを振り返りますと、この50年間で短期大学、大学とも時代や地域のニーズに応えながら高等教育機関としての立場を築いてきました。併せて、時間がかかりましたが、キャンパスの教育環境の整備にも鋭意努力してきました。近年は緑豊かな健康的で近代的な教育設備が整うキャンパスとして整備されたと思っております。

そういった意味では、美保野の50年間のこれまでを草創期・成長期と位置付けることができますし、これからの10年を大学院設置に向けた発展期、さらには充実期として展望しているところです。

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部並びに室内練習場・人工芝グラウンド・寮等が整備された美保野キャンパス（令和２年撮影）

美保野キャンパス
四つ葉のクローバー

世界中に広く知られているように、四つ葉のクローバーは「幸せ」のシンボルとして多くの人に親しまれ、見つけると幸福が訪れると言い伝えられています。みなさんも、一度は探した経験があるのではないでしょうか。

故　中村キヤ先生（第二代理事長・初代学院長）は、光星高校の硬式野球部が甲子園への出場を果たすと、美保野キャンパスの生い茂った緑の中から四つ葉のクローバーを探し、願いを込めて部員一人ひとりに贈ったというエピソードがあります。

また、幼稚園の園外保育で訪れた園児たちが、地面とにらめっこしながら喜んで四つ葉のクローバー探しを楽しんでいます。「理事長先生、四つ葉のクローバー見つけたよ！」

四つ葉のクローバーで作った
オリジナルのしおり

八戸学院大学

HACHINOHE GAKUIN | CAMPUS八戸学院 vol.59 | 【発行日】令和3年9月1日【発行】学校法人光星学院　〒031-8544青森県八戸市美保野13-98　TEL0178-30-1411(代表)　FAX.0178-30-1422